



あすなろ

H24.10月 No2
あすなろ作成委員

日中はまだまだ暑い日が続きますが、風は秋になりましたね。みなさん、いかがお過ごしのことでしょうか？運動会もやっと終わり、学校では「芸術の秋」に向けて取り組んでいるところでしょうか？

運動会と言えば・・・今年の本校の運動会は、台風に見舞われ伸びに伸びて平日開催となってしまいました。そのため観客の大変少ない寂しい運動会でしたよ。皆さんのところは大丈夫でしたか？

今回の「あすなろ」は、盛り沢山の内容になっています。原稿作成にご協力頂いた方々、お忙しい中本当にありがとうございました。

公立小・中学校事務職員研修(ステージⅢ発展)報告

公立小・中学校事務職員研修(ステージⅢ発展)に参加して

宿毛市立橋上小学校 主幹

6月21日、22日と高知県教育センターにて、上記の研修会に参加させていただきました。

早速、午前中は兵庫教育大学大学院 教授の講義を受けました。

まず、「辞めてもいいんですよ。ほくも2回も仕事をやめました。」という鮮烈な言葉からスタート。

現在が第3の教育改革である。では第1は？第2は？そして、今の教育改革の目的は何ですか？

普段あまり意識したことのない事柄に、困惑しながらも何とかついていこうと必死でした。

目的が分からないのでは進まない。今の教育改革が進まない原因はそこにあるのだそうです。

では、学校はどうか。目標が抽象的でなく、はっきりしていますか？

どんな組織も「目標」が重要。目標が具体的、共有している、達成のために組織を作りなおしているそんな組織が成果をあげているのだそうです。

そして今、中央集権から地方分権へ時代は変わっている。でもそれについていけないのが現状。私たちも中央集権にどっぷりつかっているのだなあと感じました。

以上の講義を受けた後、グループで演習。私は「山」（学校の立地によるグループ分け）グループ。同期の者同士ということもあり、和気あいあいと、学校の現状と課題、未来像を探っていきました。

2日目は、教育センターより「人材育成のためのリーダーシップ」について。

人材育成、リーダーシップともにベースになるのは、「組織マネジメント」。ここ数年の職員の採用状況や定年退職者数の推移などの資料や、キーワードから学校組織の問題点などを挙げていただきながらの研修でした。ここでも「目的・目標」が大切だというキーワードがありました。

自分たち事務職員に求められているものは何なのか？今後に不安を感じずにはいられませんでした。いまだに職場では、私が一番年下という偏った年齢構成もさることながら・・・

その後、目標達成のための「課題解決」について。ロジックツリーという方法で目標設定シートを活用しながら、具体策を探す演習でした。

最後に「風通しのよい職場づくりのために」土佐メンタルヘルス研究会の さんよりお話を聞きました。「傾聴法」について、実際にやらせてもらったりしながら、和やかな雰囲気のもと研修は終了しました。

2日間の研修でしたが、久しぶりに同期の皆さんにお会いし、リフレッシュもできた研修でした。

事務職員研修ステージⅢをうけて

黒潮町立入野小学校 主幹

研修を受けてから、3か月が経った。（忘却曲線理論によると覚えたことは1ヶ月後には79%を忘れるらしい）今、心に残っているキーワードは「視点を持つ」少し先の学校をみる視点、社会情勢の中の学校をみる視点、自分の置かれている位置を客観的にみていく俯瞰的な視点を持つことを複数の講師から繰り返し伝えられたように思う。

目の前の仕事をこなしていくことのみで終始せず未来像を描き、情報を集めてその未来像へ近づいていく。そんな仕事に対する姿勢を学んだ。

1日目の 先生は、冒頭に自由に発言しながらのセッション型の講話を、と言われたが、真面目な（？）私たち、なかなか緊張して発言ができない、・・・

正解にこだわらず、前例にとらわれず、自由に柔軟な発想を持つことが、いつの間にか難しくなっている自分に気づかされた。これからの社会の変化に対応していくためには、この発想が大切だと教わった。

午後はグループに分かれてのまとめと発表。午前中はおとなしかった私たちだったが、心に思うことは山盛りで各グループ活発に意見交換し、思いの詰まったプレゼンとなった。

20年前、何もわからなかった仲間たちがそれぞれに仕事に対する熱い思いや悩みを持ち、日々奮闘していることを感じてとても励まされた。

2日目は「人材育成のためのリーダーシップ」と「風通しのよい職場づくり～傾聴法について～」の2本。

1本目は、組織マネジメントを下敷きを考えるリーダーの要件やHowツリーを使っての論理的思考の方法を学んだ。昨日の日渡先生のお話と重なる部分も多く、理論に伴って実践の方法を自分に引き寄せて挙げることができた。

2本目の傾聴法では、実際に聴いてもらう役と聴く役を体験し、人と関わる時の態度の重要性を実感した。日々人間同士でつくっていく職場。コミュニケーションなしではどんな理論も実践できない。

「聴く」ということの難しさや、「聴いてもらう」うれしさを体感したことは、この研修の最後に心を温かくしてくれる有難い時間になった。

こうして、感想を寄せるに当たり研修を振り返り、あの時に感じた意欲を思い出すことができた。明日からまたがんばらなくっちゃ！！



四国地区公立小中学校事務研究大会(高知大会)報告



第1分科会 (香川県発表)

学校力を高める学校事務への挑戦 ―キャリア形成と協働をデザインする―

宿毛市立片島中学校

研究テーマ設定理由の中にある「経営力」「指導力」「学校の特色」「施設・環境」「学力」という5つのキーワードに惹かれ、この分科会に参加することにしました。

まず香川県のみなさんから、目指す学校事務職員像についてとそれを実現していくための実行策について提案がありました。とても丁寧でわかりやすく構成されていて、ベテランは次の世代へバトンタッチをしていくために、若い人たちは自分たちのために、学校事務職員が生き生きとやりがいをもって働くための道筋を開いていこう、という意気込みが伝わってきました。

次に提案発表を受けワールドカフェ方式で自由な話し合いがおこなわれました。席を移動しながらグループ討議を4回繰り返して深めていく方法で、5～6人の和やかな雰囲気の中で、他県の仲間と意見交換する時間が持てたことはとても良かったと思いました。討議は職制と人材育成について現状を出し合うことから始まり、キャリア形成の最終段階として権限を持った事務長への道を模索するといった内容でした。私が参加したグループでは毎回、話が盛り上がりそうとした矢先に席替えになってしまい、協働や学校への貢献というところにせまることがあまりできなかったので少し残念でしたが、どの参加者からも課題解決への糸口を見つけようとする熱意が感じられました。県によって違いはいろいろあるけど、学校事務職員として成長していきたいという思いをグループ内で共感し合えたことが良かったと思います。なかでも特に印象的だったのが「近くにいる他職種とのワールドカフェをしようと思っている。対話し共感しあうなかで何かできることが見えてくるのではないか。」という意見でした。自分では周りを見ているつもりでも、実は見えていない自分がいるのではないかと考えさせられました。

最後に岡山大学大学院の先生からまとめとして「学校力とは子どものため地域のために貢献する力。仕事をするうえでは、学校や地域に貢献できているかを常に考えてほしい。学校に良い影響を及ぼすということは地域にも良い影響を及ぼすということ、それが学校力を高めるということ。事務職員にもそういう影響をおよぼす存在になってほしい。事務長になるということは、校長や教育委員会と学校力を高めるための話が共通の話題としてできる存在になるということ。またそういう資質が備わっているということである。」とのお話があり、「影響を及ぼすような存在」という言葉がとても印象的でした。それから人材育成については「教員は予算の説明や書類作成についての話はあまり聞こうとしないが、例えば「どういう授業がしたい?」と持ちかければ話ができる。コミュニケーションの口火を切る力をつけていくことが大事。」とのことでした。これまで職員会等でいろいろ説明してきましたが、職員の反応がいつもイマイチだった理由がわかったような気がしました。教員とのかかわり方もこれから少しずつ変えていこうと思いました。

夏休みに入ってもバタバタと余裕のない毎日を過ごしていましたが、意識を目の前の書類から未来へと向けることができた一日でした。



第2分科会 (愛媛県発表)

四万十市立東中筋中学校

せっかくの四国大会だから、他県の実践を聞いてみようと、第2分科会に参加しました。四国中央市には23校小中学校あり、うち5校未配置校。3地域に分かれて共同実施を行っています。

スケジュール管理ソフト・受付文書の共有・備品一括購入など四万十市が取り組んでいる事務内容と同じものもありました。

未配置校の事務処理が自校のパソコンで行えるというシステムや、事例発生別に提出書類が一目でわかるファイルがデータ化されていて、事務職員のみでなく教員にとっても効率的な事務処理が行えることに感心しました。また図書管理システムも導入されていて、図書の購入からラベル印刷・図書検索ができ担当教員の事務負担軽減にもなっています。

このシステムも図書担当教員からの要望で作成されたということで、教員が要望できる環境であることを羨ましく思いました。

「地域児童見守りシステム」もあり、危機管理面でもしっかり保護者のニーズに応え現代社会情勢に対応したシステムが整備されている。

「学校事務支援システム検討委員会」が設置されていることが、システム化が進んでいく大きな力だと思います。

グループ討議で、他県や高知県内の他市の現状を聞き、まだまだ自分たちの地域でも取り入れなくてはいけないことがたくさんあることを知りました。

事務職員サイドだけで考えるだけでなく、教員の要望も取り入れながら、効率化を進めていかななくてはと感じさせてくれた分科会でした

四国中央市で行っているようなシステムを構築するまでには、財源の確保・事務職員の目標の一致・教育委員会の賛同等たくさんの課題がありますが、一歩でも進んでいけたらと思います。最後に「指導要録・学校健康調査票の様式を全国統一にしていけたら！」との目標もだされ、効率化の未来を思い、気持ちが晴れやかになったことでした。



第3分科会 (徳島県発表)

四万十市立竹島小学校

私の勤務する学校は、津波被害が想定される地域にあるので、徳島県の「学校地域の減災をめざして」というサブテーマに惹かれて参加しました。

発表は山間地域の学校で、津波に対する減災ということではありませんでしたが、小中合同の避難訓練の実施や他校からでも安否確認ができるようにグループで児童生徒及び職員名簿の共有、学校安全点検もグループで行うことで複数の目で確認することにより、普段目につかない場所が発見できるなど参考になることがありました。

児童・生徒が手作りで防災ずきんを作成することも、強度は低いですが防災意識の啓発につながり、また常に意識できるので有効だと思いました。

グループ討議は「学校や地域で行っている防災・減災」「共同実施組織で行える防災・減災」をテーマに行いました。

私のグループは残念ながら香川県の方がいなくて3県での討議でしたが、避難場所に指定されているのに毛布や食料など何も備わっていない。行政への働きかけが大事だ。中学生を地域の防災リーダーに育てている。事務処理支援は事務にはできない。事務書類の保管場所を共有する。備品備蓄の内容の共有など様々な意見が出ました。

今後は防災・減災だけでなく被災後、地域の共同事務組織で支援できることは何かも考えていかなければならないと思いました。



第4分科会 高知支部報告

土佐清水市立中浜小学校

幡多支部の発表があり、一応プロジェクトチームのメンバーにもなっていたので迷わず高知県担当の第4分科会に参加することにしました。

第4分科会は『学校事務で繋ぐ 一学校力を高める協働、連動機能を考えよう』というテーマでした。幡多支部、高吾支部、高知市から発表があり、その後「質の高い教育の実現のためにどのようにして協働していくか」「学校力を高める協働、連動機能を考えよう」の2つのテーマに沿って協議しました。

質の高い教育の実現のため職としてどのように関わっていけばいいのか考えたとき、例えば教材の購入について、共同実施組織や市町村単位で取り組んでいるところの実践発表がありました。組織で取り組むことで情報収集や判断等、単独でしている学校よりも質の高い教育の実現のため貢献していると思います。さらに事務職員だけでなく校長先生・担当教諭と一緒に取り組むことで効果が増すことも当然だと思いました。このような効果的な取り組みをするためには教育課程について理解し、情報を収集し、やるべきことはたくさんですが、一人ではなくチームで取り組めばできることがたくさんあるのではないかと思います。

「この範囲が事務職員の仕事」から「教育の質の向上に貢献する」という意識で仕事をしていかななくてはいけないと思います。

高知市の支援室の取組みの話では、やはり行政が主体的に動いてくれるように働きかけていくことが大事だと思いました。高知市の教育委員会の方や県教委の課長が参加してくれ、助言等をしてくれたことが大きな成果だと思いました。事務職員のことについてもより理解してもらえたと思います。自分の学校の校長先生や市教委の担当者にも参加してもらいたかったです。

課長の話の中に「事務職員が学校経営に参画するとは、まず学校改善プランを把握しておくこと」という言葉があり、早速、学校に帰って見直しました。このプランが実現できるように事務職員の私にできることは何か考えています。

最後に幡多支部の発表を担当してくれた さん、 さんお疲れさまでした。落ち着いて聞きやすい発表でしたよ。

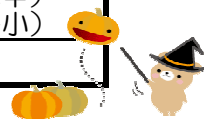


総括主任会のうごき

高知県総括主任連絡会では、県下で連携しながら育成・組織づくり・効率化の3グループに分かれて活動をしています。幡多地区総括主任連絡会でも育成や様式の統一に連携しながら取り組んでいます。その一つとして、今年度も幡多市町村教育委員会連合会の後援を受けて、幡多地区内初任者・採用2年次学校事務職員訪問研修を実施します。8月に中村南小学校からスタートし、10月・11月にかけて集中して行う予定です。研修日程や目的・内容は下記の通りとなっています。



日程	研修校	研修者
8月13日(月)	中村南小	全員
10月5日(金)	中村南小	(大方中)
11月1日(木)	午前：清水中 午後：足摺中	(宿毛小)
11月9日(金)	大方中(共同事務参加)	(宿毛小)
11月13日(火)	宿毛小	(中村南小)
11月22日(木)	西土佐中	(清水中) (宿毛小)
11月30日(金)	大方中(研修まとめ)	全員



▼研修の目的

新規採用から2年間の基礎能力習得期間中に訪問研修を行うことにより、学校事務に関する幅広い視野を育成して学校事務職員としての資質の向上を図る。

▼主な内容

学校事務のしくみや取組についての研修、予算状況についての研修、市町村独自の学校事務システムの体験、質疑応答、その他

第82回幡多地区公立学校事務職員研修会報告

平成24年6月28日（木） 於：四万十市立中央公民館

幡多地区公立学校事務研究会会則第7条第2項により総会は成立し、同条第3項により議案はすべて可決されました。

☆ 西土佐の共同実施(再編に向けて)

今回のプレゼンは、これから学校統合を控えている私たちにとって、とても参考になる発表でした。再編に向けて何をしておかなければいけないかということなど、細かな計画を立てていることに感心し、特に教委と連携して進めていくことがとても大事だということを理解することができました。自分たちの地域でも要望したいと思いました。

☆ 講演「発達障害についての理解と支援」

(県教育センター 特別支援教育担当 先生)

先生の講演は、理論だけでなく、演習もいくつかあり、自分で体感しながら楽しく理解することができました。特にペアレントトレーニング・ティーチャーズトレーニングの極意として他人と過去は変えられないが、未来と自分を変えられる。視点を変えてみることでまた違った考え方をすることができるのではないか？というお話が心に残っています。発達障害だけに限らず、なにか難しい問題にぶつかったとき、一方向からの見方だけでは十分な理解をすることはできないと思います。少し視点を変えて違う方向から見ればより理解も深まり、問題解決にもつながると思います。柔軟な考え方のできる人になりたいと思いました。



☆ グループ研修「人事評価制度について」

同じ職種なのに価値観も違っていて、いろんな目標設定があり、とても刺激になりました。年も近い者同士で話もしやすかったです。ただ、時間が少なくてグループ全員の意見が聞けなかったのもまたいつかこの研修をしたいです。

お知らせ

第5回 自前研修

～未来を考える～

平成24年12月1日(土)
受付:9時～

教育センター本館 (高知市大津乙181)

講師: 氏

なかまのうごき

8/29から中筋小学校へ
さんが着任されています。

隣接する中学校には、事務職が配置されていないので、何かと大変だと思います。一人ではないので、近くの仲間と一緒に頑張って下さい。